高速道

フォト劇場（37）

写真が生むものがたり

中央道サービスエリアの談合坂　勘助だんごで軍師にならむ

奥野政勝

「談合坂」サービスエリアの名物である勘助だんごの焼き印が嬉しく一串頂くとこの地に近く武田信玄公と軍略を練ったであろう山本勘助のことが思われる。甲斐の山々が緊張を解してくれる。

るいるいとテールランプの続くさま帰省ラッシュをテレビは映す

米田郁夫

恒例の年末風景。年が明ければUターンラッシュが始まるのだが、それでも人は移動する。村の過疎が進む。田舎では収入を得る仕事が少なく、都会に住まざるを得ない現状を思う。しかし、それにしても、ああ……。

写真・木畑紀子

老いてなほエクスタシーがよみがへる追越車線を飛ばしゆくとき

金治暁義

高速道路に入ると必ず気分が高揚する。特に遠距離のときは「いくぞ！」と奮い立つ。もちろんスピード違反には注意しているが、時にはその恍惚感に我を忘れることがある。七十一歳にもエクスタシーは甦るのだ。

高速道スピードあげるこのあたり芭蕉はめぐりぬ数日かけて

木下幸則

私は時間をかせぐ目的で車のスピードをあげる。まわりの車もまた同じ。芭蕉は「旅人と我名呼ばれん初しぐれ」という気分で、伊勢まで脚をのばしていた。のんびりとした旅の時代がうらやましい。